



メモ

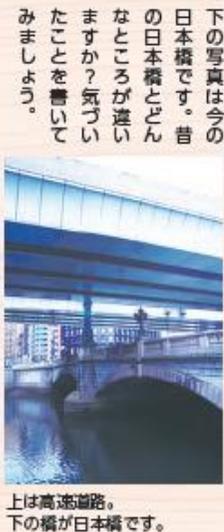
A 江戸のシンボル日本橋

江戸東京博物館の常設展示室に入るとすぐに、とても大きな橋がかかっています。これは、江戸時代（1603〜1868年）につくられた日本橋という橋を、長さを半分にして再現したものです。



Q1 ぎばしを
かいてみよう

マップ A (日本橋)



上は高速道路。
下の橋が日本橋です。

Q1 写真の一部が抜けていますが、この部分を「ぎばし」と言います。日本橋にとって大切なかざりでした。ぎばしをよく見て、抜けているところに絵をかきましょう。

Q2 下の写真は今の日本橋です。昔の日本橋とどんなところが違いますか？気づいたことを書いてみましょう。

石で作られている。
橋の上に高速道路がある。
あかりが付けられている。

なこ

Q3 日本橋を渡って、感想を書いてみましょう。
長くて広がった。
ながめがよかった。

はな



江戸東京博物館 常設展示室 案内マップ

出口は5Fです。
ぼく、ギボちゃん、日本橋のギボちゃん像がモデルだよ。

江戸時代から現代まで、道具のいま・むかし

B 大名かごに乗ってみよう

江戸時代のお殿様(大名)は、移動するとき、かごに乗っていました。



マップB (大名のかご)

Q1 このかごは何人でかついたのでしょうか。
「 4 人 」

Q2 みなさんは移動する時、どんな乗り物に乗りますか。思いついたものを、あげてみましょう。

自転車、車、電車、バス、など

Q3 かごに乗ってみましょう。乗りだせば、たじろひたか、感想を書きましょう。

せまかった
おしりがいたくなるそう
など

お殿様はこれに何日間も乗り続けていたんだ。

C 体験しよう!



マップC

Q2 この道具には文字が書いてあります。ひらがな文字を何と書いてありますか。 「 す 」



マップC (千両箱)

これは小判をいれるための箱です。千両箱と言います。ゆっくり持ち上げて重さを確かめてみましょう。

Q1 現在の消防士の役割をした「町火消」と呼ばれる人たちが火事場で使いました。これを何と言いますか。



マップC (肥桶)

Q3 野菜を作るとき、土に栄養を与えます。これを肥料と言います。江戸時代の人たちは、ある意外なものから肥料を作っていました。それは何でしょうか。 「 糞 」

昔の人たちが使っていた道具をあげてみました。電気やガスが使われるようになったことで、人びとの暮らしはどのように変わっていったのでしょうか。

江戸時代の町人が住んでいた「棟割長屋(模型)(江戸ゾーン)」と、昭和初期の「下町の庶民住宅(模型)(東京ゾーン)」の家の中を見学し、あゝえまでの道具を探してみましよう。

Q1 あゝえまでの道具は、何をするために使われていたのでしょうか。
「 1. 内」書いてみましょう。

Q2 下のあゝえまでの4つの道具が、今ではどのような道具になっているか、線を引いて、正しい組み合わせを作ってみましよう。

マップD (下町の庶民住宅)

マップD (棟割長屋)



かまど、かま
[食べ物を作る]
ための道具



洗濯板、たらい
[衣服を洗う]
ための道具



行灯
[明るくする]
ための道具



わら草履
[外を歩く]
ための道具



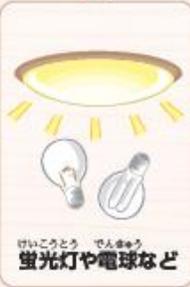
洗濯機



靴



電気炊飯器や
ガスコンロ、IHなど



蛍光灯や電球など

